あぜみち

◆私の住む三ヶ日町は静岡県の西の端、浜名湖の北に位置し、蜜柑の産地として知っている方が多いと思います。

さて、平成一三年度より蜜柑にも果樹経営安定対策（果樹経）が政策として打ち出されたのですが、私達の町のＪＡに所属している農家は無条件で全員加入し、ご存じのように、一三年度産の安値において経営的には大きな助けとなりました。しかし、こんな形で助かっていく事が本当に望ましい形なのだろうか？　自分が作ったものが多くの人達に受け入れられ、その代価としての収入で暮らしていく。これが多くの農民の願いです。もちろんこの厳しい情勢の中で甘い考えなのは分かっているつもりです。しかし、農民が残っていくかどうかは最初に経済有りきではなく、〝やりがい〟言い換えれば農業者としてプライドが保てるかどうかの方が先なのです。

私は仲間達でオレンジ共和国と言うグループを作って、農業者である事自体を理念として蜜柑ワイン製造等いろいろな活動をしています（オレンジ共和国ＨＰ参照）。これも自分たちが農業者である、蜜柑作りであるというプライドによって続けられていると思っています。もちろん暮らしていけないのではどうしようもないので、行政的には果樹経のような経済的に助けていただける政策もありがたいので、出来るだけ長く続けて欲しいと思います。しかし、それ以上に作物自体に関わるノウハウ（機能性、食べ方、保存法等）を広め、物流も改革しベストな状態で消費者まで届くような政策等に、今以上に力を注いでいただけたらと思います。ファンをふやすことが農業を守る最短な策のような気がします。

農産物に対する不信感が増大している今、農協や農水省などの組織に依存するだけでは無く、農家自身も自分達で出来る事、特に農業及び農産物について広く一般に説明、アピールする努力が必要だと痛感していますので、これからも仲間と共に色々な活動を続けていくつもりです。

（静岡県三ヶ日町　石原和夫　農業）
http://www.orange.ne.jp/~mikkabi/